

令和5年度 学校評価（自己評価、保護者アンケート、）学校関係者評価

認定こども園あくね園

（1）経営の基盤

- (1) 子どもは無限の可能性を秘め、一人ひとり個性がある。子どもの人格を尊重し、それぞれの長所や個性を見つけそれを伸ばすように絶えず努力する。
- (2) 職員対子ども、職員相互、職員対保護者の望ましい人間関係を築きながら教育にあたる。特に家庭における育児と園における教育保育の相互補完の教育を目指すとともに、職員一体となって組織としての機能を果たすようにする。また幼保一体となった認定こども園のよさを活かすと共に預かり保育・延長保育・一時的預かり保育の充実に努める。
- (3) 専門職として誇りと自覚を持ち、自主的・継続的に励み、日々の教育(保育)活動に全力を傾注する。園内研修の充実に努め、指導力の向上を図るようにする。
- (4) 子どもは環境によって変容する。自然的環境、社会的環境、人的環境の整備を継続推進し、遊びや直接体験を中心とした生活を通じて生き抜く力の芽生えを培う。

（2）教育保育目標

教育保育目標

〈たくましい子 やさしい子 かしこい子〉

子ども一人一人が大切にされているとの実感をもとに心身ともにたくましく、心豊かで、自分で考え自ら進んで行動しようとする芽生えを育てる。

- 健全な心と体を育て、健康で安全な生活に必要な習慣や態度を養う。
- 思いやりの心や自立心を培い、社会生活における望ましい習慣や態度と道徳性の芽生えを育てる。
- 豊かな感性と表現力を培い、創造性を引き出す。
- 身近な環境への興味や好奇心を育て、探求する心や考える力の基礎を養い、幼児期にふさわしい知的発達を促す。
- 言葉への興味や関心を育て、分かりやすく話すことやしっかり聞き取ろうとする態度と言葉に対する感覚を養う。

0歳から就学前まで的一体的な教育保育活動の推進

めざす園像・めざす子ども像・めざす保育者像

- 「めざす園像」
乳幼児が園生活が楽しいと実感し、愛情にあふれ信頼される園
- 家庭や地域と連携し地域に開かれた園
- 保育者と保護者、保護者同士がつながり育ち合う園

- 「めざす子ども像」
明るく元気で最後までがんばる子
- みんなと仲良く遊び思いやりのある子
- よく聞きいっしょうけんめい考える子

- 「めざす保育者像」
子どもへの深い愛情をもち、一人一人を大事にしよさを引き出す保育者
- 学ぶ謙虚な姿勢をもち研修に励み使命感と情熱をもって教育保育に取り組む保育者
- 明るく健康で家庭や地域と連携し信頼される保育者

臺んで登園！満足感で降園！あすも来たい園！
子どもが「先生大好き！友達っていいなあ！あくね園って楽しい！」と実感する園！

（3）今年度の重点課題

	課題	具体的な取り組み内容
1	安全管理	安全指導や環境整備、遊具等の安全対策等が課題である。毎月の安全点検や避難訓練等の充実を図りたい。
2	保健衛生	新型コロナウィルス感染症等の感染症予防に努める。衛生についての意識を高め基本的な生活習慣定着を図る。
3	教育課程	子どもの発達段階に応じて、遊びを工夫する。「5領域」や「幼児期の終わりまでに育つほしい10の姿」を考えた教育保育に取り組む。
4	保育の質の向上	保育活動を含めそれぞれの職種に関わる職務内容について研修を深める。職員同士情報を共有し職務に取り組む。今日的な教育保育課題の解決のために園内研修を充実していく。

(4) 学校評価
① 教職員の自己評価

令和5年12月1日～12月15日 回答者29人
※平均・・・(4×□+3×□+2×□+1×□) ÷△ (分からぬを除く数)

項目	あてはまる 4	ややあてはまる 3	あまりあてはまらない 2	あてはまらない 1	分からぬ 6	平均
子どもの経験や発達段階に応じて日々の活動やしつけ等を適切に行っている。	23				6	4.00
子どもや職員、子どもの家庭のことや園のことを園の外で話題にしていない。	23	5			1	3.82
子どもと関わることといっしょに活動できることを喜びながら職務に励んでいる。	23	6				3.79
保護者や来園者等に誠意を込めた電話応対、あいさつなどをしている。	21	7			1	3.75
職員自ら健康管理に努めるとともに子どもの健康観察や消毒、掃除、部屋の換気等を行っている。	21	7			1	3.75
子どもの緊張や不安をなくすために、子どもの考え方や行動を温かい態度で受け止め、一人一人に接している。	19	7			3	3.73
子どもの命を守るために安全指導や遊具等の安全対策に努めている。	19	7			3	3.73
園での様子を送迎時の連絡や週報、連絡帳等で家庭との連携を図っている。	15	7			7	3.68
子どもの怪我や子ども同士のトラブルなどについて適切に対応している。	15	8			6	3.65
遊びが学びであるとの意識を大事に様々な体験活動の場を積極的に取り入れている。	15	8			6	3.65
保護者が気軽に話したり、相談したりできるようにしている。	13	8	1		7	3.55
子どもの年齢や発達段階等に応じて言葉遣いやルール、物事の善し悪しに気づくような指導支援を行っている。	14	12			3	3.54
話を聞くことと思い切り体を動かす活動等メリハリのある教育保育を行っている。	13	11			5	3.54
子どもは成長の過程にあることを前提に、給食やおやつは子ども一人一人の実態に応じた支援を行っている。	18	10			1	3.50
人間は皆違うことを自覚し、それぞれの仕事で職員同士で協力し合い助け合っている。	15	12	1		1	3.50
子どもたち一人一人の人権を尊重し、適切な支援を行っている。(不適切な言動等はしていない。)	15	12	1		1	3.50
子どもの発達段階に応じて一人一人の願いや実態、興味、したいことを生かしながら教育保育を行っている。	11	11	1		6	3.43
特別な配慮や支援を要する子どもに適切な支援を行っている。	10	10	1		8	3.43
職員同士で環境構成や活動内容、方法、分担等について話し合い情報を共有している。	13	9	3		4	3.40
研修で学んだことを園運営や教育保育等に生かし、職員連絡会等で共通理解したことを確実に実践している。	8	16	1		4	3.28
「5領域」や「幼児教育の終わりまでの育ってほしい10の姿」を意識して計画を作成し、実践している。	8	9	1	2	9	3.25
教育方針や目標等をもとに教育保育活動の計画(月案、週案、日案)を作成している。	11	7		3	8	3.24
子どもの発想や自發的な活動を引き出し、ねらいが達成できるような用意や材料を準備している。	6	13	2		8	3.20

② 保護者アンケート

回答者数 63人

項目	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	無答
1 週報や園だより、ホームページ、インスタグラム等で園の子どもの様子や保育活動等を分かりやすく伝えている。	44	16	3 ※3		
2 子どもの年齢や月齢、発達段階や興味・関心に応じた教育保育を行っている。	53	10			
3 保育者は子どもの特性や実態をよく理解し、支援・援助をしてくれている。	53	10			
4 コロナ禍にも関わらず工夫しながら、発達段階や年齢に応じた様々な体験活動を取り入れている。	53	10			
5 話を聞いて静かにする時間と自由に遊ぶ時間等のメリハリのある教育・保育を行っている。	49	13			1
6 子どもの命を守るために安全に配慮している。	49	14			
7 インフルエンザや新型コロナウイルス感染症をはじめ感染症予防に取り組み、子どもたちの健康を守る配慮をしている。	49	12	2		
8 保育者は保護者の相談に誠意をもって対応してくれ、相談しやすい雰囲気である	42	17	4 ※3		
9 園及び保育者は保護者の意見や要望等に適切に対応してくれている。	44	15	4 ※3		
10 職員の電話応対、あいさつ等適切である。	53	9		1	
11 子どもはこの学年になり成長したと感じる。	55	8			
12 子どもは毎朝あくね園に行くのを楽しみにしている。	38 ※2	23	1		1
13 あくね園以外の方にあくね園を紹介し入園を薦めたいと思う。	36 ※2	26	1		

※1 全体的に概ね良好と回答している

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると、全ての項目で90%を超えている

※2 「園のことを紹介し入園を薦めること」「子どもがあくね園にいくのを楽しみにしている」の項目で、「そう思う」が他の項目と比較し低い傾向にある。

※3 「相談への対応」「意見や要望への対応」「情報を分かりやすく伝えること」の項目について「あまり思わない」の意見が若干ある

③ 達成状況

課題	具体的な取り組み内容	達成状況
1 安全管理	安全指導や環境整備、遊具等の安全対策等が課題である。毎月の安全点検や避難訓練等の充実を図りたい。	安全が第一であるとの意識を共有し、危機意識をもって取り組んでいる。安全点検や避難訓練も適切になされている。
2 保健衛生	新型コロナウィルス感染症等の感染症予防に努める。衛生についての意識を高め基本的な生活習慣定着を図る。	感染症拡大防止を最優先に登園の自粛協力依頼や保育室の換気等に努めてきている 3歳以上児を中心に手洗い等の習慣化に努めている。
3 教育課程	子どもの発達段階に応じて、遊びを工夫する。「5領域」や「幼児期の終わりまでに育つてほしい10の姿」を考えた教育保育に取り組む。	子どもが主体的に取り組む教育保育活動を目指しているが、十分とは言えない。 今後子どもの実態や発達段階をもとに計画を作成し実施に努めたい。
4 保育の質の向上	保育活動を含めそれぞれの職種に関わる職務内容について研修を深める。職員同士情報を共有し職務に取り組む。今日的な教育保育課題の解決のために園内研修を充実していく。	月1回以上の園内研修やZOOMにより研修など職員自身が学ぶ機会を多く持つようにしている。 保育職員がざっくばらんに語る場を設け様々な意見交換ができる。

④ 課題評価、アンケート結果をもとに次年度取りむ

課題	取り組み内容
1 教育保育計画	・具体的なねらいや内容が子どもの年齢や経験、「幼児期の終わりまでに育つてほしい10の姿」に沿ったものであるかどうかを重視していく。
2 保育の質の向上	・子どもの愛着心を育む保育者のていねいな対応や活動の内容・方法を工夫して施設や保護者に信頼され、通わせたくなる園、紹介したくなる園を目指す。
3 特別支援教育の充実	・特別な配慮を必要とする子どもの理解を深め、個に応じた支援を工夫していく。保護者との相談体制を確立し、関係機関との連携を図る。
4 安全管理の徹底	・常にマニュアルを見直し避難訓練や日常的な安全点検等を実効性のあるものとする。